

カジノを容認した統合リゾート（IR）法

小林寿太郎

カジノを法律で容認した統合リゾート（IR）法を安倍政権が世論の反対を押し切って強引に成立させたことは記憶に新しい。IR法とはレストラン・ホテル・国際会議場などとともにカジノも完備した統合的なリゾート施設を建設することを目指している。国際会議に出席した外国人をホテルに宿泊させ、カジノでお金を使ってもらおうという狙いらしい。

この法律によれば国はカジノの粗利からまず30%を納付させる。次に必要経費などを控除した純利益からも国税、地方税を改めて納税させる。

うまく行けば国にとっても相当、うまみのある計画である。

先日国際会議に出席する機会の多い自然科学が専門の科学者の話を聞いた。

彼女によると日本で国際会議が開かれる際、外国人からは横浜と神戸に人気集中するという。

横浜や神戸の中華街で中華料理を食べながら話をするのを楽しみにしているという。公式の場では話題にならないような学会の動向、各国政府の科学政策、予算、人事などをフランクに話させる場は必要らしい。彼女に「外国人の科学者は中華料理屋ではなくカジノに行ってお金を使うか」と尋ねたところ、あり得ないとのことだった。

ロシアの文豪ドストエフスキーが大のバクチ好きだったことはよく知られている。人間にはそういう射幸心があることは否定できない。しかし、今でさえギャンブル依存症で苦しむ人が多いのだから、カジノ公認にはもっと慎重な検討が必要だったと思う。